

第18回与謝野晶子短歌文学賞

青春の短歌 入賞作品

選者 永田 紅 伊藤 一彦 今野 寿美

文部科学大臣賞

君落とす言の葉つばをたんねんに拾つてのばす受話器のこちら

秋田県立秋田高等学校 奈良 茉莉子

「君」との電話。相手の発した言葉を、葉つばのように拾い集め、ひとつひとつ丁寧に味わい直している様子が「拾つてのばす」によく表されている。相手が無気なく言ったかもしれない言葉でも、作者にとってはとても大切。

「高校生の部」青春の短歌賞

白鳥は去年のことを何ひとつ知らずに渡るまたこの土地に

宮城県宮城第一高等学校 伊藤 菜津子

「去年のこと」が、震災に関わるさまざまなことであることを思うとき、この歌は静かに強く読者を揺さぶる。余計な感想を交えず、ただ自然の営みとしての白鳥の飛来を詠む。「何ひとつ知らずに」また今年も渡り鳥がやって来るのは、悲しく美しく、そして救いでもある。

「中学生の部」青春の短歌賞

教科書の左右の厚み左から反対がわへ流れてゆくよ

大阪教育大学附属平野中学校 下地 可倫

縦書きの教科書だろう。開いたとき、はじめは左側に厚みがあったのに、授業が進むとどんどん右側が厚くなってくる。時間の経過を、ページの左右の厚みの変化で感じ取る。普段気に留めることもないことだが、こんなふうに詠いとめられると感心させられる。

大阪府知事賞

教科書からあふれた文字は教室を満たして今日もその中を泳ぐ

大阪府立鳳高等学校 中村 有希

京都府知事賞

兄からゆずりうけた受験本付箋が桜の花びらのように

京都府立嵯峨野高等学校 大江 康平

堺市教育長賞

窓辺より差し込む光鋭くて昏く私はそれを遮る

大阪府立鳳高等学校 山尾 文子

京都女子大学賞

面越しに見つめる君にもう一步近づきたくて強く打ちこむ

群馬大学教育学部附属中学校 飛知和 志帆

堺歌人クラブ賞

いつの日か君の右手に包まれた僕の左手ありますように

大阪府立三国丘高等学校 渡部^{わたべ} 麗杏^{れいあ}

与謝野晶子倶楽部賞

教室でチョークの音に反応しきゆうきゆう鳴り出す心に気づく

広島県立三次青陵高等学校 三嶋 良太

菊池寛記念館賞

夏の夜のしずかな中に雨が降る玄関の横にせみの羽化あり

富山県氷見市立南部中学校 十二町 俊貴

日本ユネスコ協会連盟賞

真夜中にいつものメンバー集まって黙ったままの天体観測

埼玉県・星野高等学校 森口 加奈子

与謝野町長賞

そう、恋だ。みとめます、ええ 恋、恋だ。くそう電車よ着いてくれるな

京都府・同志社高等学校 橋爪 志保

奥出雲町長賞

恥ずかしさかくすためにはマフラーをぐるぐる巻きました

京都教育大学附属桃山中学校 吳 智恵

三国路 与謝野晶子紀行文学館賞

電車から近づく君の住む街の大きな青の橋が見えるよ

埼玉県立桶川西高等学校 富山 翼

北九州市立文学館賞

やさしくて無口なきみがひくギター雨の心にかさをさしだす

鹿児島県南九州市立穎娃中学校 上窪 友美

阿波南海歌人賞

冬の木は嘘をつけないが私は鬱葱とした夏の木だ

神奈川県・鎌倉女学院高等学校 村井 佑美佳

第18回与謝野晶子短歌文学賞

青春の短歌 高校生の部 入選作品

太陽が沈むことなく在ったなら人は木洩れ日に気付けるのかな

京都府・立命館宇治高等学校 森 亜依未

水仙の花をいけた祖母の部屋風が通れば祖母も通る

京都府・立命館宇治高等学校 野見山 瑛里子

達成感通り越したら虚無感それらはきつと紙一重の差

京都府・立命館宇治高等学校 清藤 鈴奈

日本には多くの偉人がいるけれど全て知るには少ない二時間

京都府・立命館宇治高等学校 中村 由花

報われないそれでも君を笑わせるこんな想い方あってもいいだろう

京都府・立命館宇治高等学校 佐野 優華

授業中左側からクラスメートのポルトガル語の寝言聞こえる

埼玉県立桶川西高等学校 鈴木 愛美

手作りの旗押し立てて青春は夏の香りの中を進むよ

埼玉県立桶川西高等学校 市川 栄作

夕焼けが動いて見えたその瞬間一斉に散る赤とんぼの群れ

埼玉県立桶川西高等学校 斉藤 晃司

お土産のイルカの形のキーホルダー煌めくそれを思い出という

埼玉県立桶川西高等学校 菊池 真衣

この川に流す秘密もあったという青空の下夏の利根川

埼玉県立桶川西高等学校 杉山 稔

おいしそうこの山全部食えるなら卵をかけて醤油ご飯で

埼玉県立桶川西高等学校 山本 拓杜

作り方忘れてしまった折り紙の小さな薔薇は掌の上

神奈川県・鎌倉女学院高等学校 田邊 美知

人一倍寂しがり屋なあの人に私のマフラー貸した夕暮れ

山口県立防府商業高等学校 池永 優光ゆうみ

目が合うと急に真面目な顔をする君になんだか腹が立つんだ

山口県立防府商業高等学校 谷藤 美織

忘れ物取りに戻った教室はいつもと違う無音の空間

早稲田佐賀高等学校 諫山 絵理香

君の手がポンと叩いた右肩がスタート前までずっと気になる

早稲田佐賀高等学校 山本 華名美

寒空と電話越しに聞く君の声リップの香料舌先にしみる

早稲田佐賀高等学校 内田 莉佳子

帰省して両親を見てふと思う反抗してたのいつまでだった

早稲田佐賀高等学校 野見山 敬介

巴橋の塗りかえられて赤き橋わたりて行けば赤くそまりぬ

広島県立三次青陵高等学校 越智 聡至

右左電車で揺られよろよろと授業に部活に左へ右へ

大阪府立鳳高等学校 治村 瑠壱子

解けるまで部屋にずっとこもってた気づけば空に満天の星

大分東明高等学校 藤澤 諒子

薄い笑い会話の返事はあいまいでダシを忘れたみそ汁のよう

沖縄県立小禄高等学校 永井 作美

繋がりはきつと普通じゃいられない触れてしまえば絡まる鎖

沖縄県立小禄高等学校 金城 未来

アンパンマン顔あげられる優しさが逆に恐くて震えた私

沖縄県立小禄高等学校 名護 あさひ

君が聞く「あいていますかクリスマス」空いているけど相手いません

福島県立葵高等学校 玉川 裕二

料理人せわしく動く中華鍋あこがれの人が我父^{わがちち}

岐阜県立岐阜商業高等学校 田中 しおり

君といた、十三ヶ月に「あの頃」と題名つけて壁に飾る日

鹿児島県・神村学園高等部 若松 ありす

三十一文字わつと叫ぶには長過ぎてとつと語るには少し足りない

東京都・晃華学園高等学校 石丸 海里

雪道をゆつくり歩く寒い朝知らない人でも話したくなる

東京都・晃華学園高等学校 窪田 晴香

めがねでも見えないものはたくさんでもたくさんものを見たくて

東京都・晃華学園高等学校 根岸 奈月

なつかしき友と自分の将来を強いなまりで語り明かした

富山高等専門学校 齋藤 航大

雪の中誰も来でない体育館ボールの音が静かに響く

富山高等専門学校 江尻 光輝

蒸し暑く空もほんのり暗いけどあの日見た海にひどくうたれた

大阪府立東百舌高等学校 城山 茉雪

定型を崩す短歌を考えて出てくるものが定型だけだ

大阪府立泉北高等学校 辻林 弘樹

また来なさいそう言っていた亡き祖父の仏壇の前でまた来たよと言う

福岡県立糸島高等学校 重松 奈那美

ダチヨウにはジャスミンの花が似合ってる大きなダチヨウと小さなジャスミン

大阪府・初芝富田林高等学校 江口 佳南

恋心鳳仙歌みたく膨らんで飛び散る際に君へと届け

滋賀県立湖南農業高等学校 二村 希春

君のこと100回くらい忘れようそう思ってたでも会いたいよ

福井県・北陸高等学校 川口 祐里

ノクターン高二のオレが鍵盤にあわせなくてはならない気持ち

福井県・北陸高等学校 小澤 泰一

三学期最も短い学期だがとても明るい音を奏でる

大阪府立三国丘高等学校 前川 祐希

あの子がくれた小さくて青い飴は馬鹿みたいにイチゴ味

大阪府立三国丘高等学校 島 健斗

銀色のこいが川から飛び出したなんだかとてもうれしかった

大阪府立三国丘高等学校 大本 紗衣

授業中方程式を解きながらノートの隅に記す君の名

大阪府立三国丘高等学校 伊藤 栞

振り向けば積もった雪にくつきりと歩いたぶんの物語たち

大阪府立三国丘高等学校 木下 真実

初雪の降り積もる朝をつるつると歩くあなたは子どもみたいね

長崎県立長崎工業高等学校 馬場 歩実

これからもずっといっしょ試合の応援はちみつレモンもっていくから

福岡県・久留米信愛女学院高等学校 宮本 美優

三月の十一日に更新の止まったブログいくつあるうか

香川県立高松西高等学校 吉田 裕貴

パイナップル「完全無欠」が花言葉むらさき色の花も美し

東京都・明星中学高等学校 小林 夏海

秋空へ刃物を並べ売っている刃表に光る雲がただよう

長崎県立諫早農業高等学校 岩永 大暉

春うららよく分からない数式が春うららの霞にぼけてる

長崎県立諫早農業高等学校 松尾 暉将

暮れてゆく山の斜面の水色を歩道橋に立って眺める

長崎県立諫早農業高等学校 森 紘太郎

帰り道昼と夜とが混ざる空に照らされる木々黒く美し

群馬県立高崎女子高等学校 福島 千尋

うらうらと差す春の陽を浴びながら浮かぬ顔の教室たちよ

長崎県立長崎工業高等学校 山口 千寛

珈琲に沈めた白に勝てなくてそんな気がした深夜二時過ぎ

宮城県名取北高等学校 増 あすか

教科書を丸めて作った望遠鏡あなたが振り向き時間が止まる

大阪府立泉陽高等学校 畑中 紗瑛

ふと見ると甲につきたるてんてんの虫の模様は私のこころ

大阪府立鳳高等学校 吉村 美早紀

君のその眠りに落ちる瞬間の顔を眺める私も眠い

愛媛県立松山西中等教育学校 村上 晴香

人ごみでひときは目立つ走り方幾年たつても癖はなほらず

東京都・関東国際高等学校 渡邊 彩

きんきんと電車とレールが擦れ合う歯医者へ行くのは明日にしよう

東京都・麻布高等学校 飯野 玄

どこへでも探しておいでユートピア

そうしてきつと、かえっておいで

山口県立山口中央高等学校 平野 文香

第18回与謝野晶子短歌文学賞

青春の短歌 中学生の部 入選作品

辛いとき音楽室で楽器吹く周りがとても明るく見えた

京都府・立命館宇治中学校 小宮山 慧南

青空をきつぱり2つに分けるのは東京発の飛行機雲だ

兵庫県・甲陽学院中学校 越馬 遼

十本も指はあるのに右足の親指だけがくつ下破る

兵庫県・甲陽学院中学校 森澤 一平

文化祭自分の作品見直すと案外上手く見えるものかな

兵庫県・甲陽学院中学校 平田 将隆

パキスタンウズベキスタンカザフスタンタジキスタンにアフガニスタン

兵庫県・甲陽学院中学校 木村 海斗

友達と床に寝ころび空を見たそこには長い飛行機雲が

愛知県・椋山女学園中学校 石飛 杏紗

試合中どんな状況であろうともひたすら進め前へ前へと

静岡県・常葉学園橘中学校 鈴木 崇斗

北海道のどこかなつかしい風景をどじ込めているわたしのマリモ

青森県三沢市立堀口中学校 ヒックス アピファニー 彩

海の風心の中まで染みとおり僕をゆるがす夏の体温

青森県三沢市立堀口中学校 沖澤 咲妃

みかんをねわこわこぱくつと食べすぎてつめのふちから黄色く染まる

岐阜県土岐市立駄知中学校 國行 美花

白い吐息暗い空へのぼりゆく君をまつてる交差点で

岐阜県土岐市立駄知中学校 山田 萌木

外は闌光る明かりに寄る虫のように私は君を追ってく

山口県下関市立安岡中学校 坂本 峻

ケータイのズラリと並ぶ長いすの端にはいつも読書の君が

広島県・ノートルダム清心中学校 川藤 知恵

種まけば花咲かそうと努力する本当は根を育てることだ

富山県氷見市立南部中学校 山崎 廉

朝早く商店街につばめ来る活気づくのは人の心だ

東京都・早稲田大学高等学院中学部 廣瀬 智優

物理でな説明できない事はない熱く語るは我が部の顧問

東京都・早稲田大学高等学院中学部 天野 健太

体より大きなバッグ背負いながら道行く僕はカタツムリなり

東京都・早稲田大学高等学院中学部 倉田 大輔

ミドリガメ育て始めは五円玉今ではなんと五〇〇円玉

東京都・早稲田大学高等学院中学部 矢嶋 来斗

勉強をしようと机に向かうのがシャーペンいじりの始まりなのだ

東京都・早稲田大学高等学院中学部 松原 一樹

棚の奥古びた本のあの一文僕の心にしおりをはさんだ

京都市立西京高等学校附属中学校 高谷 連

バスの中日が差す車内ののどかさに乗り過ぎたことに気づかぬ私

京都市立西京高等学校附属中学校 木岡 輝

放課後で土のにおいを感じてる私の後ろに風は吹いてる

京都市立西京高等学校附属中学校 栗山 侑子

あったかいスープを飲むと流れ出す自分の中の悔しい気持ち

京都市立西京高等学校附属中学校 朝子 莉帆

うるう年一日多く過ごせる日中学生の時間もふえる

名古屋市立汐路中学校 長田 日菜子

なんとなく話さず歩く雨の廊下心落ちつく私の時間

名古屋市立汐路中学校 山口 真由

引退後ふつと部活がしたくなる試験の後にまたやりたいな

京都教育大学附属桃山中学校 吉松 直樹

放課後の教室にただ一人だけこの学校をもらった気分だ

東京都・星美学園中学校 金田 朋実

三年間あつという間の毎日はオレンジ色で思い出される

東京都・星美学園中学校 神田 恵子

ひまわりが一面に咲き誇っていたらそこを太陽の海と呼ぼうか

東京都・星美学園中学校 末廣 陽みなみ

教室の窓側二列目四番目中学最後の私の居場所

東京都・星美学園中学校 荒木 陽来はるな

遠くても近く感じるパソコンで話しているとつかしくなる

広島県・AICJ中学校 門田もんでん 知哉

お互いに肩濡らし帰る思い出に逆さにつけたてる坊主

早稲田佐賀中学校 田中 青しょう

星空の蠍に咬まれた狩人は帯ずれながら光り渡らむ

早稲田佐賀中学校 山口 聖矢

プリントを目の前にして手をとめて深く考える僕がいる

早稲田佐賀中学校 前田 凌

だれとでも混じって光る君の色寄り添う僕はただあこがれる

早稲田佐賀中学校 佐藤 凱斗^{かいと}

うつむいて走っているとつくしんぼ気持ち切り替えラストスパート

早稲田佐賀中学校 高橋 健一郎

曇り空教室の窓をのぞいては自分のどこかと似ているようで

埼玉県入間市立東金子中学校 森永 みゆ

授業中遠くの景色見つめては小さな世界思い描いてる

埼玉県小川町立檉台中学校 岩崎 里沙

数学の文字ばかりのノートってハートマークを書きたくなるの

茨城県・水戸英宏中学校 矢澤 愛実

友達とまだかまだかと待っていた待ち時間さえ最高の思い出

福岡県・久留米信愛女学院中学校 近藤 明日香

手をつなぎ共に歩いた石畳二人の思い出石のパズルに

福岡県・久留米信愛女学院中学校 唐川 葵

卒業式近付いてきてちらしらずの上に散らばるいろんな思い出

名古屋市立有松中学校 牧野 朱莉

電車の中ゆらゆらゆれてく十四才のままずっとかけていく

京都市立松原中学校 田中 美緒

夏の日がゆれるたび動き出す私の鼓動列車みたいに

京都市立洛南中学校 杉山 夕菜

本を読むと喜んでくれるその本が私もうれしい自然に笑顔

鹿児島県中種子町立中種子中学校 塙^{ばん} 京夏

開国の歴史に思いはせながら友と歩いた横浜の街

仙台市立広瀬中学校 大沼 勇貴

緊張で人って書いて飲み込んでまた飲み込んでさあステージへ

仙台市立広瀬中学校 猪股 奏子

夕暮れの囲炉裏の炭に火が灯り友との会話熱を帯びゆく

仙台市立広瀬中学校 新井 一矢

風の音ただそれだけが聞こえてた早く早くと私をせかす

仙台市立広瀬中学校 佐藤 瞳

あたたかな日射しを浴びてりんりんと風に揺れてるつくしの子たち

千葉県・八千代松陰中学校 高野 沙和子

パアアンと鋭い音を響かせてたつぷり鳴らすよ私の楽器

千葉県・八千代松陰中学校 古川 己利名^{いりな}

花の中不思議な世界の中学校一年過ぎてガラスのようだ

千葉県・八千代松陰中学校 長 遥菜

夏の空風に吹かれるあの雲の裏から注ぐ明るい光

千葉県・八千代松陰中学校 原 啓介

友達とケンカをすれば雨一つそれが続けば湖一つ

千葉県・八千代松陰中学校 毛利 波瑠香

寒い冬手ぶくろマフラー身にまとい自転車を通う梨棚の道

千葉県・八千代松陰中学校 濱口 七海

羊雲大軍組んで走ってる空という名の青い野原を

千葉県・八千代松陰中学校 竹原 洸毅

まぶしくてふと目をそらす道路脇二輪並んでなのはなが咲く

東京学芸大学附属小金井中学校 高久 瑛理子

雨の日はみんな嫌いというけれど窓からの景色ほらかえるがいる

東京学芸大学附属小金井中学校 浮島 望

喧噪のさざめきの外ひとり立ち真白き紐の春のスニーカー

静岡県沼津市立第五中学校 篠原 陸

何をして天道虫は怒ったの？そんな不思議な事じゃないけど

新潟市立坂井輪中学校 笹川 麻友